

GSX

GLOBAL
SECURITY
EXPERTS

2023年3月期 第2四半期
決算説明会レポート（書き起こし）

2023年3月期 第2四半期 決算説明会レポート

- 2023年3月期 第2四半期決算概要
- 2023年3月期 業績予想
- 経営トピックス
- 中期経営計画
- ESGの取組み
- 事業内容
- Appendix

Summary

■ 2022年3月期 第2四半期 業績ハイライト

前年同期比 大幅増収増益 第2四半期累計期間で過去最高額を更新

売上高 25.7億円 (前年同期比+34.4%)、営業利益 3.5億円 (前年同期比+65.0%)
通期業績予想に対して売上高・営業利益ともに例年を上回る進捗

■ 2023年3月期 業績予想

売上高拡大は継続、利益率の向上を最重要視し、経営基盤を強固に

売上高 54億円 (前期比+23.0%) 営業利益 7億円 (前期比+59.3%) 営業利益率13%
全事業まんべんなく伸長、教育事業の拡大により利益成長が加速

■ 資本政策

「1対2」の株式分割を実行、兼松エレクトロニクス社との連携強化

株式分割で株式の流動性を高めると同時に投資家層のさらなる拡大を図る
株式会社ビジネスブレイン太田昭和の保有する当社株式の一部を
販売パートナーの兼松エレクトロニクス株式会社に譲渡し資本提携を強化

■ 中期経営計画

既存事業で年率25%の売上成長、営業利益率18.0%を目指す

2025年3月期までに売上高84億円、営業利益15億円超を目指す

IRサイト

当社HPのIRサイトでは、株主・投資家の皆様へ積極的に情報を発信しております。ぜひご覧ください。
<https://www.gsx.co.jp/ir/>





2023年3月期第2四半期 決算説明資料

グローバルセキュリティエキスパート株式会社 4417
2022年10月

グローバルセキュリティエキスパート株式会社、代表取締役社長の青柳です。

本日はご視聴いただきまして、ありがとうございます。
2023年3月期第2四半期決算についてご説明いたします。
よろしくお願いいたします。



Agenda		GSX GLOBAL SECURITY EXPERTS
1	2023年3月期 第2四半期決算概要	P 3
2	2023年3月期 業績予想	P 13
3	経営トピックス	P 16
4	中期経営計画	P 23
5	ESGの取組み	P 30
6	事業内容	P 32
7	Appendix	P 50

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 2

本日はこのようなアジェンダに沿ってお話いたします。

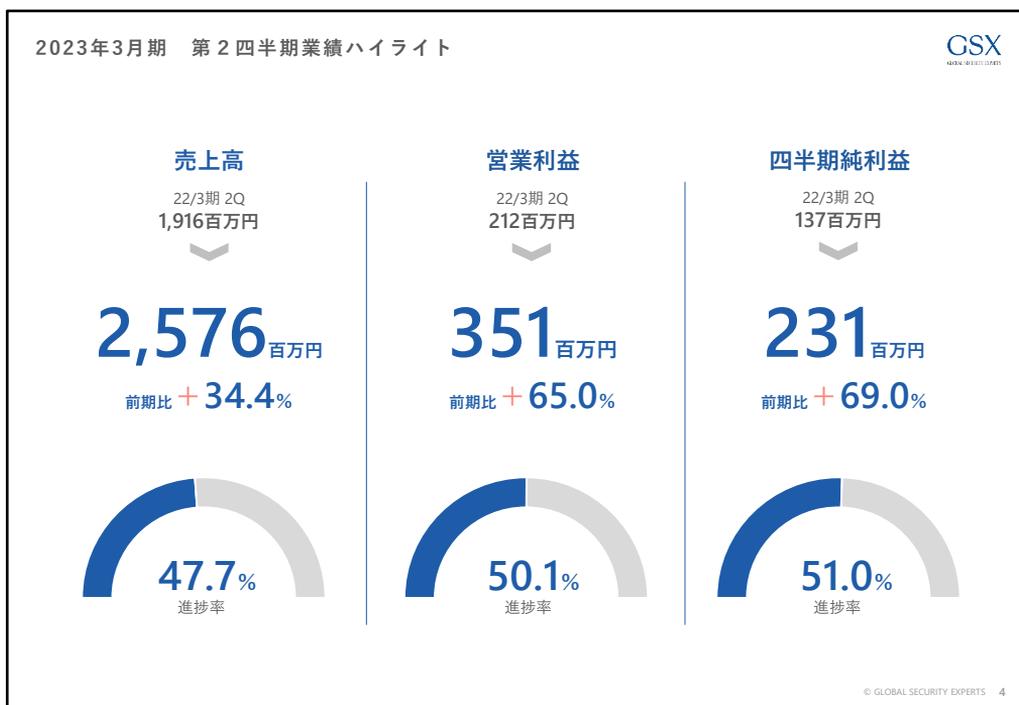




2023年3月期 第2四半期決算概要

第2四半期の決算概要をご説明いたします。





まず、ハイライトです。

売上高は前期比34.4%増の25億7,600万円、
営業利益は前期比65%増の3億5,100万円。
四半期純利益は2億3,100万円です。
順調に成長していると考えております。



2023年3月期 第2四半期業績ハイライト

GSX
GLOBAL SECURITY EXPERTS

- ✓ 前年同期比大幅増収増益 第2四半期累計期間で過去最高額を更新
- ✓ 通期業績予想に対して進捗率約50% 売上・利益ともに前年同期を上回る進捗率
- ✓ 中堅・中小企業のインシデント※多発によりセキュリティソリューション事業が伸長
- ✓ IT企業・SIerにおけるセキュリティ人材育成ニーズの加速により教育事業が伸長
- ✓ 将来成長に向けた人員投資を実行しながらも営業利益は前年同期比大幅増

※インシデント：マルウェアやウイルス感染による情報漏えい、システムロックやWEBサイト改ざんによる情報漏えいなどの恐れ

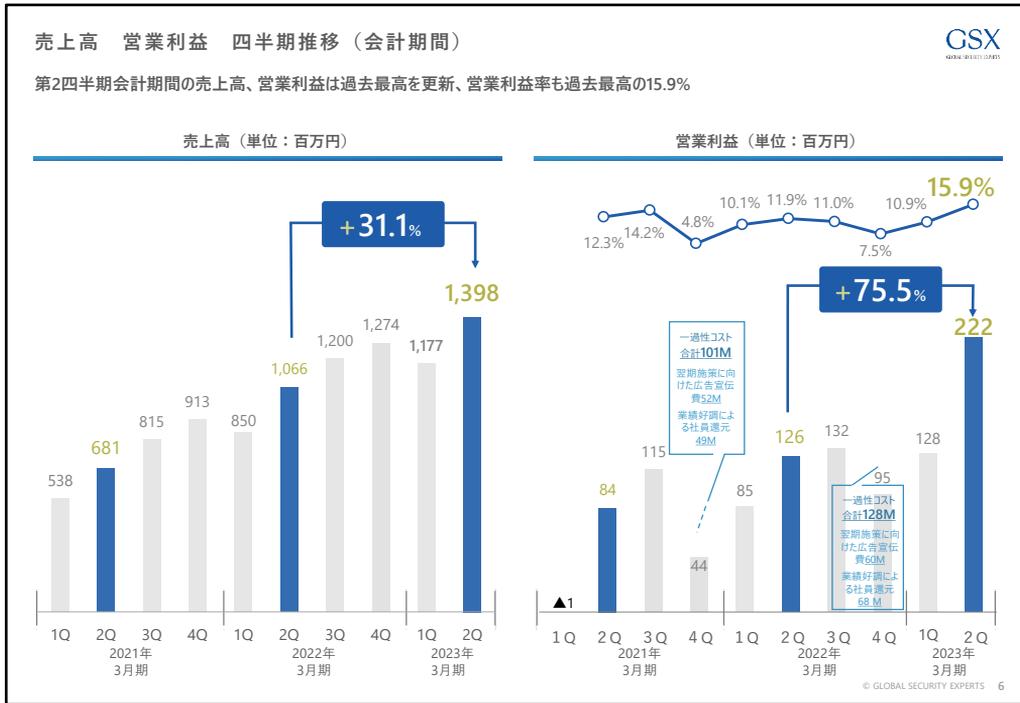
© GLOBAL SECURITY EXPERTS 5

ハイライトの続きです。前年同期比は大幅増収増益で、第2四半期累計期間で過去最高額を更新しております。

通期の業績予想に対しての進捗率も約50%で、売上高・利益ともに前年同期を上回る進捗率でした。

事業部別としては、セキュリティソリューション事業の伸長と教育事業の伸長が顕著でした。
また、将来成長に向けた人員投資を実行しながらも、営業利益は前年同期比大幅増となりました。

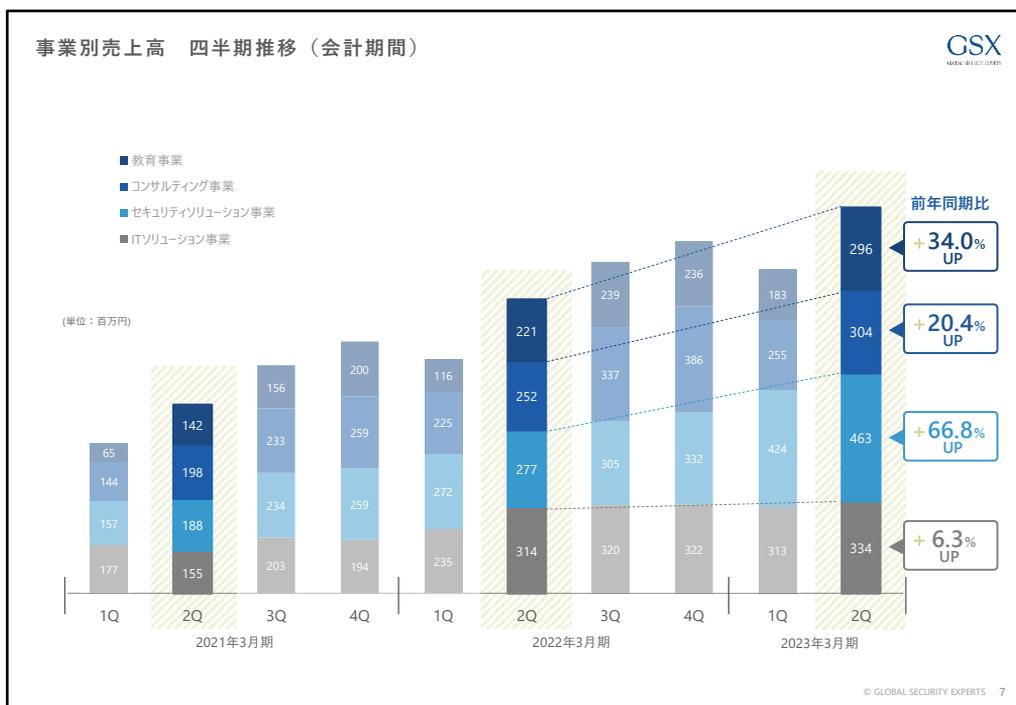




四半期の推移です。

売上高・営業利益ともに、四半期で過去最高になり、営業利益率も過去最高の15.9%となりました。

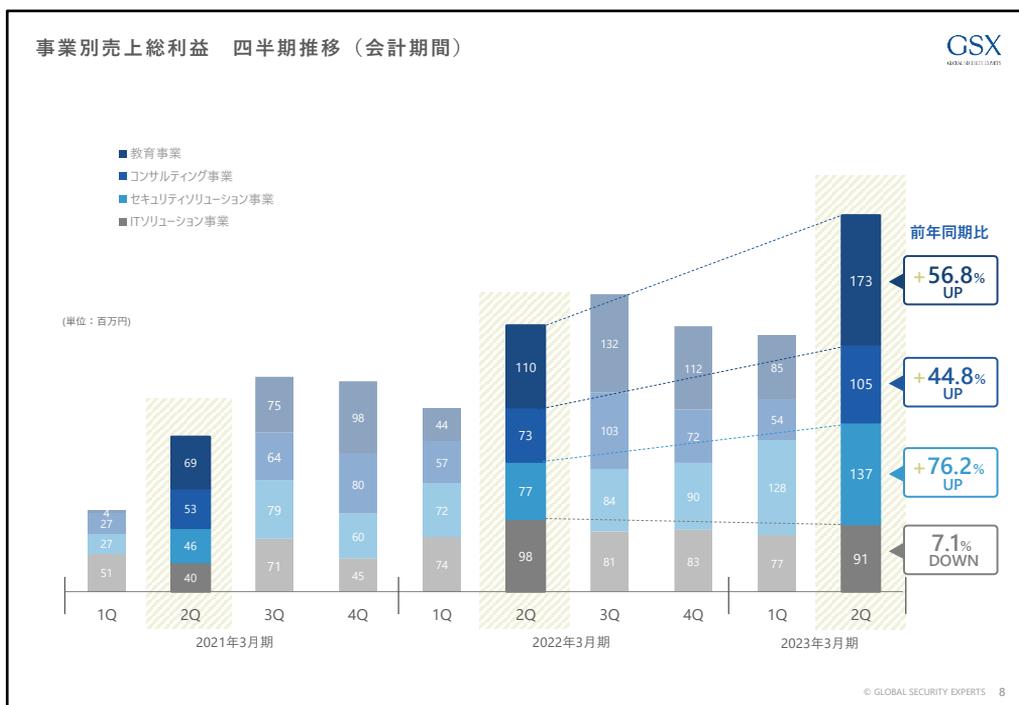




事業別の売上高の四半期推移です。

右側の「UP」の表記を見ていただきたいのですが、特に下から二番目の「セキュリティソリューション事業」と一番上の「教育事業」の伸長が顕著でした。



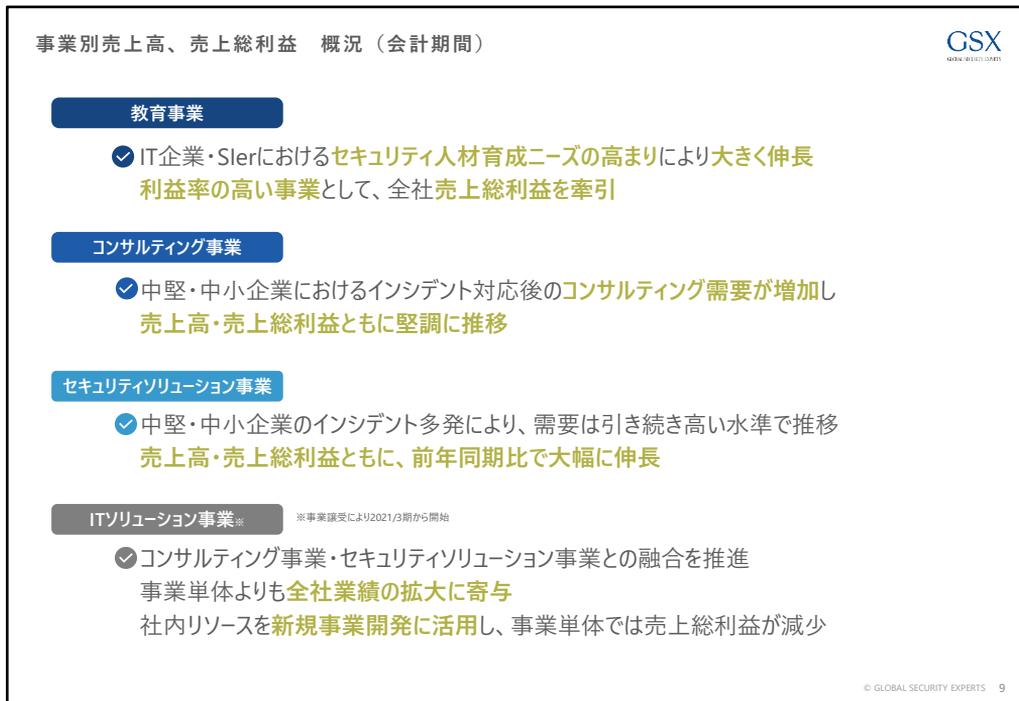


事業別の売上総利益の四半期推移です。

こちらは上から「教育事業」「コンサルティング事業」「セキュリティソリューション事業」の3つの事業が大きく伸長しております。

7.1%DOWNと書いてあるのはITソリューション事業ですが、こちらは次ページでご説明いたします。





事業別の売上高・売上総利益の概況です。

まず教育事業は、IT企業・Sler（システムインテグレーター）様におけるサイバーセキュリティ人材育成ニーズが高まっており、ビジネスとしても伸長しております。こちらは利益率の高い事業として、全社の売上総利益を牽引しております。

コンサルティング事業は、中堅・中小企業様をターゲットとして、インシデント対応が終わったあとのコンサルティングの需要が増加して、売上高・売上総利益ともに順調に推移しております。

セキュリティソリューション事業に関しては、インシデント自体が多発しており、需要は引き続いて高い水準で推移しております。売上高・売上総利益ともに前年同期比で大幅に伸長しております。

一方で、ITソリューション事業に関しては、コンサルティング事業、セキュリティソリューション事業が非常に好調であるため、ITソリューション事業との融合を推進しております。事業単体よりも会社全体の業績に寄与するため、社内リソースを新規事業開発に活用するなど、事業単体では売上総利益が減少しておりますが、会社業績の拡大に寄与しております。



P/L（累計期間）

売上高、営業利益ともに高成長を継続、営業利益率は前年同期比2.5ptUPの13.6%

(百万円)	2022/3期 2Q実績	2023/3期 2Q実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	1,916	2,576	659	+34.4%
売上総利益	607	823	216	+35.6%
売上高総利益率	31.7%	32.0%	+0.3pt	-
販売費・一般管理費	394	472	77	+19.7%
販売費・一般管理費	20.6%	18.3%	-2.3%	-
営業利益	212	351	138	+65.0%
営業利益率	11.1%	13.6%	+2.5pt	-
経常利益	209	350	140	+67.0%
経常利益率	11.0%	13.6%	+2.7pt	-
四半期純利益	137	231	94	+69.0%
EPS（円）	43.20	69.98	26.78	-

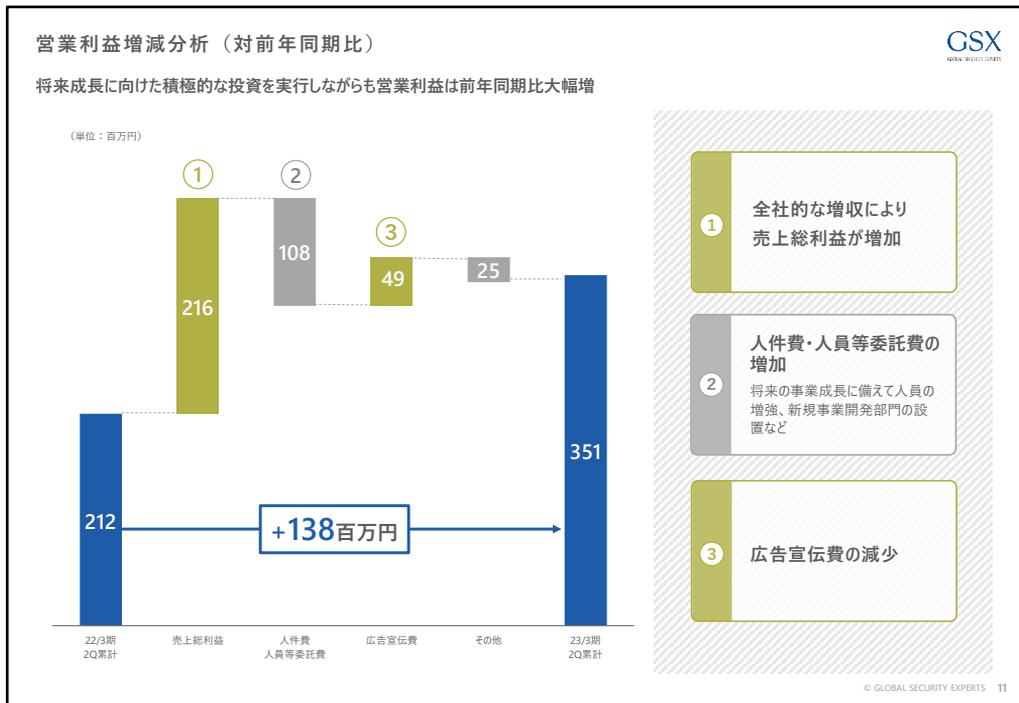
© GLOBAL SECURITY EXPERTS 10

P/Lです。

前ページで申し上げたとおり、売上高は前年同期比34.4%増、売上総利益は前年同期比35.6%増の8億2,300万円、その結果、営業利益は3億5,100万円となりました。

また、今年度の営業利益率は、昨年度の通期10%から3%上げて、通期13%にするというお話をさせていただきました。こちらも順調に推移しておりまして、第2四半期累計の営業利益率は13.6%となりました。





営業利益の増減分析です。

昨年度の第2四半期累計の営業利益 2 億1,200万円から、今年度の第2四半期累計は一番右の 3 億5,100万円になりました。

全体的な増収によって売上総利益が増加したことが最も大きな要因です。



(ご参考) B/S

GSX
GLOBAL SECURITY EXPERTS

(百万円)	2022/3期2Q	2023/3期2Q	前期比 増減	前期末比 増減率
流動資産	1,903	2,773	869	+45.7%
現金及び預金	534	1,191	656	+122.9%
売掛金及び契約資産	736	889	153	+20.8%
その他	633	692	59	+9.4%
固定資産	424	683	258	+60.9%
有形固定資産	40	38	-1	-3.6%
無形固定資産	224	204	-20	-9.2%
投資その他の資産	160	440	280	+175.4%
資産合計	2,328	3,456	1,128	+48.5%
流動負債	1,168	1,571	403	+34.5%
買掛金	140	181	40	+28.9%
1年内返済予定の長期借入金	42	56	13	+30.5%
その他流動負債	984	1,334	349	+35.5%
固定負債	111	193	82	+73.9%
長期借入金	107	193	86	+80.6%
その他固定負債	4	0	-4	-
純資産	1,048	1,691	642	+61.3%
自己資本比率	45.0%	48.9%	+3.9pt	-

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 12

バランスシートに関しましては、ご参考としてご覧いただければと思います。





続きまして、2023年3月期 業績予想についてお話をいたします。



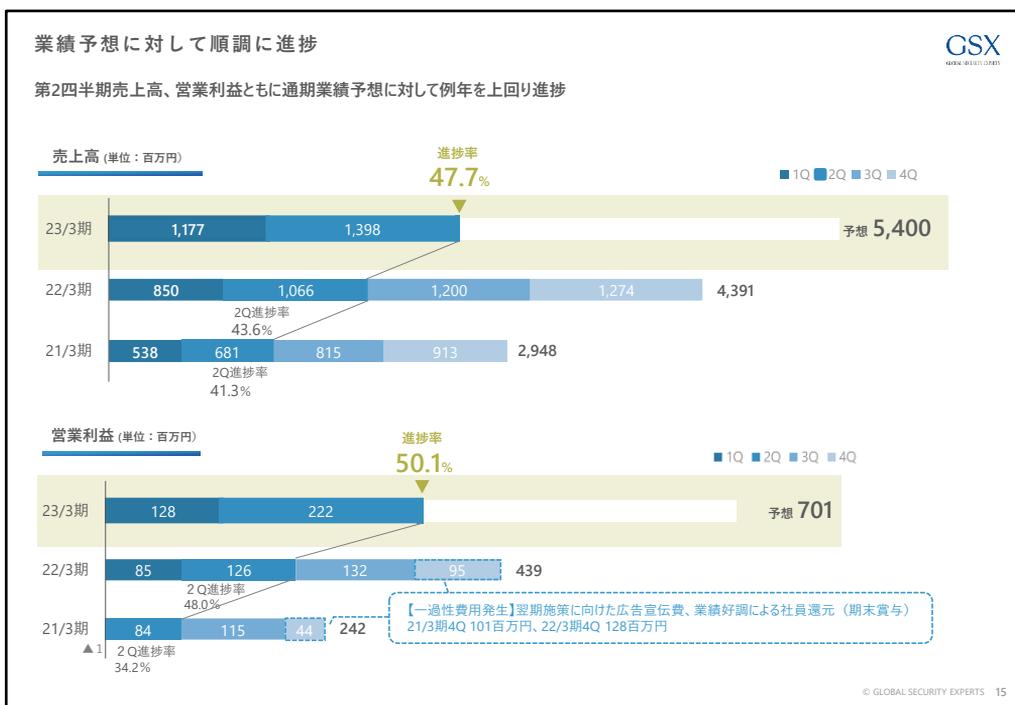
2023年3月期の基本方針と業績予想				
基本方針	売上高拡大は継続、利益率の向上を最重要視し、 中長期成長を支える経営基盤を強固にする			
売上高は前期比+23.0% 営業利益は前期比+59.3% 営業利益率は13%を目指す アップセル・クロスセルで全事業をまんべんなく伸長 教育事業の拡大により利益成長が加速。販売パートナー・デリバリーパートナーを活用した効率的な運営により利益率の向上を図る				
(百万円)	2022/3期 実績	2023/3期 予想	増減額	増減率
売上高	4,391	5,400	1,008	+23.0%
営業利益	439	701	261	+59.3%
営業利益率	10.0%	13.0%	+3.0pt	-
経常利益	414	700	285	+68.9%
経常利益率	9.4%	13.0%	+3.6pt	-
当期純利益	261	455	193	+74.3%
EPS (円)	40.46	68.69	28.23	-
<small>(注) 2022年11月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の株式分割を実施する予定です。2022/3期実績及び2023/3期予想におけるEPS (円)は、当該株式分割を考慮した額を記載しています。</small>				
<small>© GLOBAL SECURITY EXPERTS 14</small>				

先ほどご説明したとおり、上期は好調に推移をしております。

しかし現時点では、通期の売上高54億円、営業利益7億円の計画としておりまして、経営としては、この通期予想をボトムと考えて邁進しております。業績予想の修正が必要になったときには適時に開示いたします。

売上高拡大を継続して、利益率の向上を最重要視し、中長期成長を支える経営基盤を強固にする方針です。営業利益率にこだわるということは変わりなく推進していきたいと思っております。





業績予想に対しての進捗率です。

繰り返しになりますが、通期の売上高54億円、営業利益7億円に対する進捗率です。売上高が47.7%、営業利益は50.1%と、昨年度に比べて高い進捗率となっております。

当社は例年、第1四半期の売上高が最も低く、第2四半期で売上高が大きく伸び、そのまま第3・第4四半期まで緩やかに売上高が上がっていく傾向ですが、今年度も同様の傾向であると見込んでおります。

営業利益に関しては、第3・第4四半期で期末賞与や従業員向けインセンティブ、プロモーションなどの実施を検討しております。そのため、通期業績予想については、コストが確定したあと、修正が必要であれば速やかにご報告申し上げたいと考えております。





経営トピックスをお話いたします。



ラック、NRIセキュアテクノロジーズ、GSX が合同で「サイバーセキュリティイニシアティブジャパン」を設立

当社および連携する各社の持つ豊富な経験とナレッジを活かして、日本のサイバーセキュリティ水準の向上に貢献

CSIJ
サイバーセキュリティイニシアティブジャパン
会長 中尾 康二
国立研究開発法人情報通信研究機構サイバーセキュリティ研究所

①「共通対策評価フレームワーク」の策定と提供
②「サイバーセキュリティプロフェッショナル人材フレームワーク」の策定と提供

内閣サイバーセキュリティセンター
総務省、経済産業省
などの関係省庁とも連携

LAC / NRI SECURE / GSX GLOBAL SECURITY EXPERTS

各社が持っているノウハウを結集し、セキュリティ業界共通フレームワークを構築
セキュリティ業界各社がお客様向けに有償サービスとして利用できるように整備

後援企業：KDDI 株式会社、株式会社野村総合研究所
賛同企業：株式会社インフォセック、株式会社 F F R I セキュリティ、エムオーテックス株式会社、KDDI デジタルセキュリティ株式会社
株式会社サイバーディフェンス研究所、株式会社セキュアイノベーション、株式会社セキュアウェル
S O M P O リスクマネジメント株式会社、株式会社ブロードバンドセキュリティ、三井物産セキュアディレクション株式会社
株式会社ユービーセキュア

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 17

第1四半期の決算発表でもご説明いたしましたが、今年4月1日に、ラック社、NRIセキュアテクノロジーズ社、当社の3社でサイバーセキュリティイニシアティブジャパンを設立しました。

各社が持っているノウハウを結集して、サイバーセキュリティ業界のコンサルティングのフレームワークや人材育成、教育の標準をつくる取り組みです。各ワーキンググループで話し合い、フレームワークなどの標準をつくるというものです。

その内容に賛同していただき、利用していただくのが、サイバーセキュリティ業界の企業様であるため、当社のポジションがより明確になる側面があります。これも当社の存在感が上がるものと認識しております。



資本政策


株式分割



2022年10月31日を基準日として『1対2』の株式分割を実行

目的 当社株式の流動性を高めるとともに、投資家層のさらなる拡大を図る

株式分割前の発行済株式総数：3,327,000株
株式分割後の発行済株式総数：**6,654,000株**

資本提携強化



販売パートナーである兼松エレクトロニクス社との連携を強化

株式会社ビジネスブレイン太田昭和の保有株式の一部を兼松エレクトロニクス株式会社に譲渡
受渡期日：22年10月5日

保有株式比率	譲渡前（22年3月末）	譲渡後（10月5日）
株式会社ビジネスブレイン太田昭和	65.9%	51.14%
兼松エレクトロニクス株式会社	9.01%	23.11%

（注）議決権所有割合は、2022年3月31日現在の総株主の議決権の数33,265個を基準に算出しております。

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 18

資本政策として、当社は10月31日を基準日として1対2の株式分割を実行します。目的は当社株式の流動性を高め、投資家層のさらなる拡大を図ることです。

また、資本提携強化のため、ビジネスブレイン太田昭和保有の当社株式の一部を、兼松エレクトロニクス社に譲渡しました。兼松エレクトロニクス社は、当社の販売代理店として最も売上高の大きい会社です。さらに当社株式を保有してもらうことで、協業の数字を伸ばしていく狙いで、両社で合意をしました。兼松エレクトロニクス社と密に連携しながら提携シナジーを出していきたいと考えております。



新規事業の展開 **vcISO** 安心相談サービス (サイバーリスク保険付き) 22年10月3日提供開始 **GSX**

中小企業をサイバー脅威から護る「安心相談サービス (サイバーリスク保険付き)」をリリース 費用は月額15,000円～

GSXが提供する様々なセキュリティサービスにサイバーリスク保険を付帯してパッケージ化
日本全国380万社の中小企業の自衛力向上に貢献するセキュリティ安心バックサービス ※新規事業の業績は今期予想には含まれておりません

ターゲットは、日本全国の中小企業

380万社

無償サービス	安心相談サービス (サイバーリスク保険付き)			追加有償サービス
	LITE	STANDARD	PREMIUM	
ポータルサイトでの情報提供 昨今のセキュリティ事情	よろづ相談	よろづ相談	よろづ相談	コンサルティングサービス (マシニングサービス含む)
セキュリティ記事	文書テンプレート	文書テンプレート	文書テンプレート	セキュリティ製品導入提案
Webinar動画	Eラーニング	Eラーニング	Eラーニング	文書テンプレートカスタマイズ セキュリティポリシー策定
インシデント相談窓口	サイバーリスク保険	サイバーリスク保険	サイバーリスク保険	インシデント対応 詳細調査
	OPTION サイバー・ドレコ (Eメール系/セキュリティ) 健康診断詳細レポート、その他			

●安心相談サービス (サイバーリスク保険付き) サービスメニュー

<p>LITE</p> <p>15,000円/月額</p> <p>よろづ相談 サイバーリスク保険 文書テンプレート</p>	<p>STANDARD</p> <p>30,000円/月額</p> <p>よろづ相談 サイバーリスク保険 文書テンプレート Eラーニング 合同メール訓練</p>	<p>PREMIUM</p> <p>50,000円/月額</p> <p>よろづ相談 サイバーリスク保険 文書テンプレート Eラーニング 合同メール訓練 セキュリティ健康診断 個別カウンセリング</p>
--	---	---

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 19

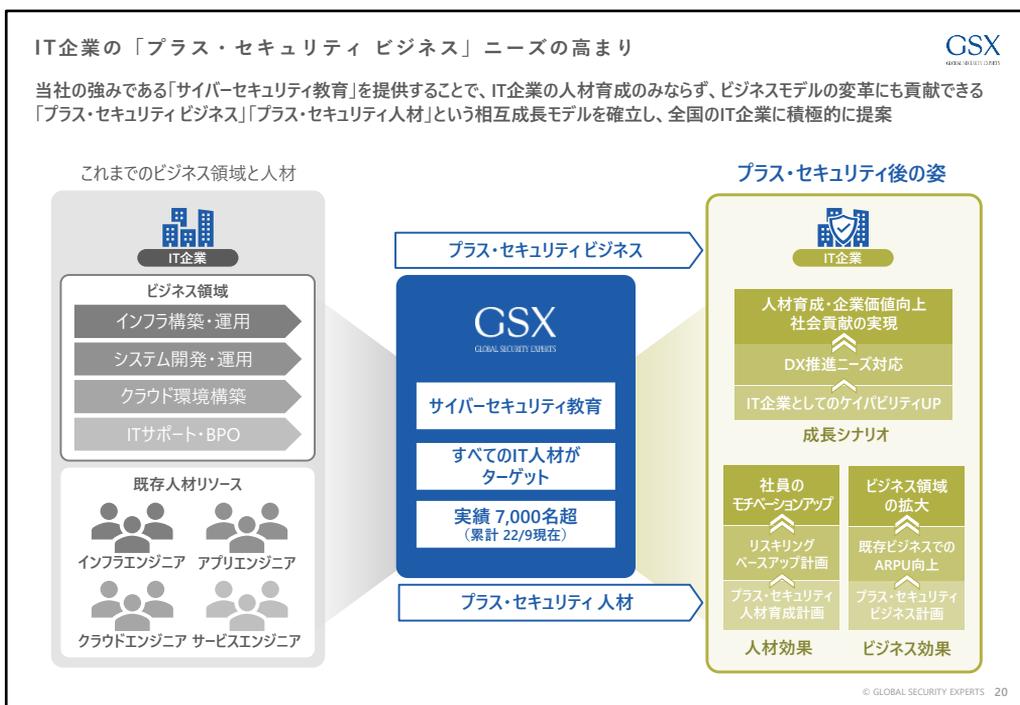
新規事業の展開についてです。

「vcISO安心相談サービス」を、今年の10月に提供開始しました。当社は現在、従業員数500人から5,000人規模の中堅企業のお客様がボリュームゾーンです。「vcISO安心相談サービス」は、従業員数300人以下の中小企業様向けに、内容と価格帯を構想して開発した、ウェブ型の新サービスです。サイバーセキュリティ専任者を置けない中小企業様のニーズに対応し、チャットなどを使用して、いつでもコンサルタントが隣でサポートするようなイメージのサービスです。

昨今は、サプライチェーンの大手企業から、取引会社となる中小企業に対して、サイバーセキュリティに関するチェックや要望が寄せられるケースが多く見られます。また、グループ会社の親会社から子会社・孫会社に対して、セキュリティ上のコーポレートガバナンスとして同じような指示がされることも多くあります。

月額1万5,000円から5万円までのサービスですが、画期的なのは「マルウェアに端末が感染してしまい、端末を全部交換しなければならない」「サーバーを変更しなければならない」といった場合に、200万円までの保険金が降りるところです。中堅企業のお客様と、中小企業のお客様の裾野を広げるというビジネスを展開していくための、非常に大きな武器だと思っておりますので、注力していきたいと考えております。





「サイバーセキュリティ教育カンパニー」として看板を掲げている当社ですが、サイバーセキュリティ教育事業を後押しする材料は、世の中に多くあります。そのうち3つをご紹介します。

ひとつめは、IT企業・Sler様の「プラス・セキュリティ ビジネス」のニーズが高まっていることです。

IT企業様は左側の図のように、例えばインフラ構築、システム開発・運用、クラウド環境構築、ITサポート、BPO、コールセンター、データセンターなどのビジネス領域を持っており、それぞれにエンジニアがいらっしゃいます。

そこに当社のサイバーセキュリティを掛け合わせると、IT企業としてのケイパビリティ（企業全体の組織的な能力）がアップし、いつか必ず手掛けなければならないDX（デジタルトランスフォーメーション）推進ニーズにも応えられます。何よりも企業価値が向上し、人材育成ができて、かつ販売単価も上がっていきます。

サイバーセキュリティ教育を受けたエンジニアの方々は「プラス・セキュリティ人材」になれるため、モチベーションアップにもつながります。

IT企業様は、単価が上がることでARPU（1ユーザーあたりの平均売上高）が向上、ビジネス領域が拡大するなど、とても良い組み合わせが「プラス・セキュリティ・ビジネス」でできると考えております。

これを実現したいIT企業・Sler様が非常に増えております。今後もこの流れは続くと考えております。



製造業の製品部門・生産部門にもサイバーセキュリティ教育の採用が進む

GSX
GLOBAL SECURITY EXPERTS

大手製造業での全社横断的なセキュリティ人材育成を支援
空調事業、生産事業、化学事業、DX事業の「製品セキュリティ」と「生産セキュリティ」をカバー

製品セキュリティを中心とした三本柱に



社内IT



製品とサービス



工場/生産

「繋がる製品」の安全性確保はすぐに取り組まなければならない課題
製品セキュリティと生産セキュリティが機能するために必要なセキュリティ人材を育成

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 21

前ページはIT企業・Sler様がターゲットの話でしたが、ここ半年ぐらいは、特にOT(Operational Technology)と呼ばれる製造業専門のITシステムや、製品自体がインターネットに繋がっていることについてセキュリティを担保する必要があるため、そこに携わる人材にサイバーセキュリティ教育を施してほしいという需要がかなり増えております。

IT企業・Sler様にサイバーセキュリティ人材をつくること以外に、製造業の製品部門・生産部門の人材にサイバーセキュリティを教えていくビジネスが生まれてきていることが、ここ最近のトレンドだと考えております。



政府の重点施策「リスキリングへの投資」がサイバーセキュリティ教育事業の追い風に

GSX

政府主導の経済政策「新しい資本主義」の柱に掲げる「人への投資」の具体策を立案する議員連盟が発足

人への投資
予算(5年間)
約1兆円

3つの柱

- ① 転職・副業を受け入れる企業や非正規雇用を正規に転換する企業への支援
- ② 在職者のリスキリングから転職までを一括支援
- ③ 従業員を訓練する企業への補助拡充

働く人の学び直し(リスキリング)の支援策を検討する
自民党の議員連盟
「DX(デジタルトランスフォーメーション)時代のリスキリング振興議員連盟」発足

経済産業省

申請中

『**リスキル講座**
(第四次産業革命スキル習得講座)
認定制度』

IT・データ分野を中心とした専門的・実践的な教育訓練講座を
経済産業大臣が認定

※「リスキル講座(第四次産業革命スキル習得講座)認定制度」は、IT・データを中心とした将来の成長が強く見込まれ、雇用創出に貢献する分野において、社会人が高度な専門性を身に付けてキャリアアップを図る、専門的・実践的な教育訓練講座を経済産業大臣が認定する制度

厚生労働省

申請中

人材開発支援助成金
『**人への投資**
促進コース』

デジタル/成長分野

高度デジタル人材訓練/
成長分野等人材訓練

高度デジタル人材を育成するための訓練や
大学院での高度な訓練を行う事業主への
高率助成

※「人材開発支援助成金」とは事業主が労働者に対して訓練を実施した場合に、訓練経費や訓練期間中の資金の一部等を助成する制度

サイバーセキュリティ教育事業の“追い風”に

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 22

最後は、政府も推進しているリスキリングについてです。

リスキリングでは、サイバーセキュリティ人材を育てることが重要なキーワードになっていると思います。

習得する難易度が高いものの人材を育てたい分野、例えばデータサイエンスやデータ分析、サイバーセキュリティ、AIやIoTなど分野に対して国が助成金を出しております。日本のITレベルを上げて、日本の価値を上げようとしているためです。

すでに経済産業省でも、サイバーセキュリティ分野のリスキリングの講座や認定制度ができておりますし、厚生労働省でも、リスキリングの一環として「人への投資促進コース」の「高度デジタル人材訓練」があります。これらに認定されるべく、当社のサイバーセキュリティ教育コンテンツを申請中です。

リスキリングが当たり前になり、付加価値の高い人材を育てていきたいという潮流は、当社の「サイバーセキュリティ教育カンパニー」という看板と、教育コンテンツにとってかなり追い風になると考えております。





中期経営計画をお話いたします。





GSXのターゲットは2つございます。

まずはエンドユーザーである中堅・中小企業様で、サイバーセキュリティに必要なサービスをワンストップで提供しております。

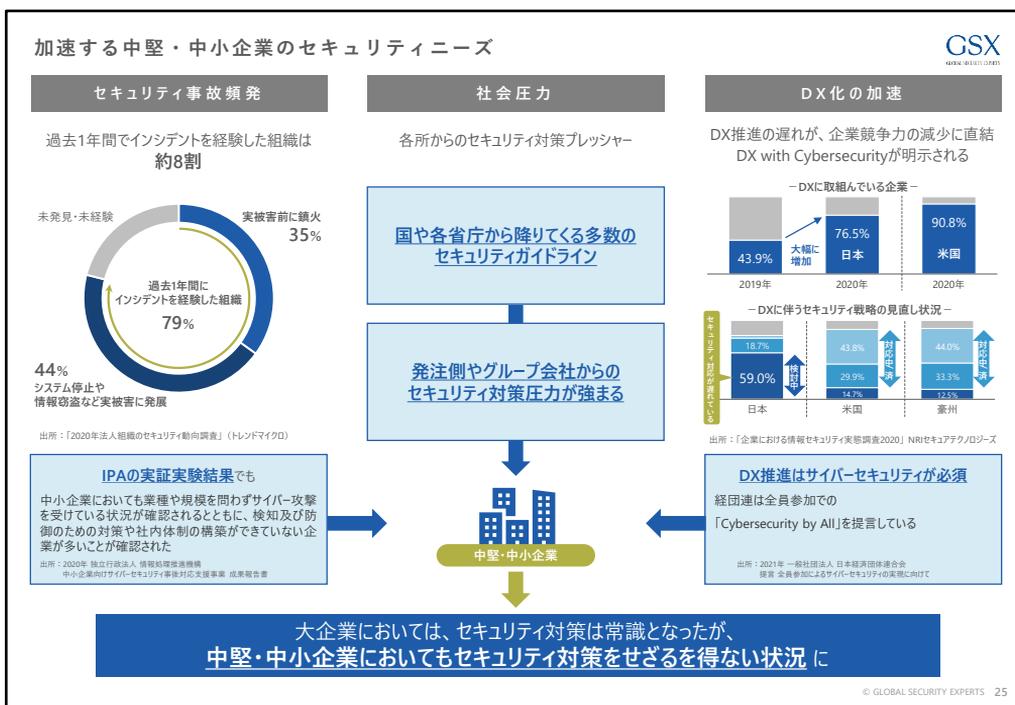
緊急対応、会社のセキュリティ状況を可視化するコンサルティング、ウェブサイトの脆弱性診断、サイバーセキュリティ人員の教育や従業員全体のサイバーセキュリティ教育、サイバーリユージョンの提供など、中堅・中小企業様に必要なサイバーセキュリティ対策を、当社は全て提供しています。

大企業向けではなく、中堅・中小企業様にちょうど良くリーズナブルなサービスパッケージにしていることが大きな特徴です。

もうひとつが、IT企業・SIer様をターゲットとして、先ほどの「プラス・セキュリティ人材」と同様に、100万人以上いるIT人材の方々に当社のサイバーセキュリティ教育を受けていただいて、サイバーセキュリティが分かるインフラ人員、サイバーセキュリティが分かる開発人員になっていただき、価値を上げていただくものです。

これらが2つの大きなターゲットです。





中堅・中小企業様のサイバーセキュリティニーズというのはどんどん上がっております。

つい数年前までは、サイバーセキュリティ対策といえば大企業がやるというのが常識でしたが、今は中堅企業様にもセキュリティ事故が多発しています。

先ほどお話しした（サイバーセキュリティ対策を促す）社会的な圧力もあります。例えばサプライチェーンの取引会社、発注会社に対してサイバーセキュリティ対策を促す圧力が高まっています。もともとは2020年の東京オリンピックに向けて、金融庁であれば金融庁のガイドライン、総務省や経済産業省であれば各省の作っているサイバーセキュリティガイドラインが出されています。それらに対応しなければならないのが大企業だけではなく、中堅企業様も対象になってきたということです。

加えて、中堅・中小企業様自身がDX化を推進する流れになってきていて、そこにもサイバーセキュリティ対策が必須です。

中堅・中小企業様において、サイバーセキュリティ対策をせざるを得ない状況になってきたのが、大きなトレンドの変化です。



加速するIT企業・Slerのセキュリティ教育ニーズ

セキュリティがITの品質のひとつに

【システム開発】
システムが完成してから脆弱性を見つけるのではなく、開発の初期工程からセキュリティ対策を踏まえることで、素早く・確実な開発ができる（セキュア開発）

【クラウドサービス】
顧客が安心して利用できる環境を提供することができる

【ITインフラ構築・運用】
情報漏洩を防ぐ、外部からの不正アクセスを防ぐといった、セキュリティ対策が必須

セキュリティでIT商材に付加価値をつける

IT企業・Slerが同業他社との差別化を図るには自社の商材にセキュリティをプラス

商材の価値向上と競争力をつける

セキュリティはDX推進に不可欠

IT企業・Slerの顧客にもDX化の波DX推進にはセキュリティが必須

営業社員・ITコンサルタントにもセキュリティの知識が必要に

GSXセキュリティ教育講座 受講者数の推移

期	受講者数
17/3期	122名
18/3期	189名
19/3期	290名
20/3期	560名
21/3期	1,299名
22/3期	2,996名

経済産業省「サイバーセキュリティ体制構築・人材確保の手引き」でも「**プラス・セキュリティ**」※人材の確保を提言

IT企業・SlerのIT人材に向けた セキュリティ教育ニーズが一気に高まっている

※「プラス・セキュリティ」：自らの業務遂行にあたってセキュリティを意識し、必要かつ十分なセキュリティ対策を実現できる能力を身につけること、あるいは身につけている状態のこと

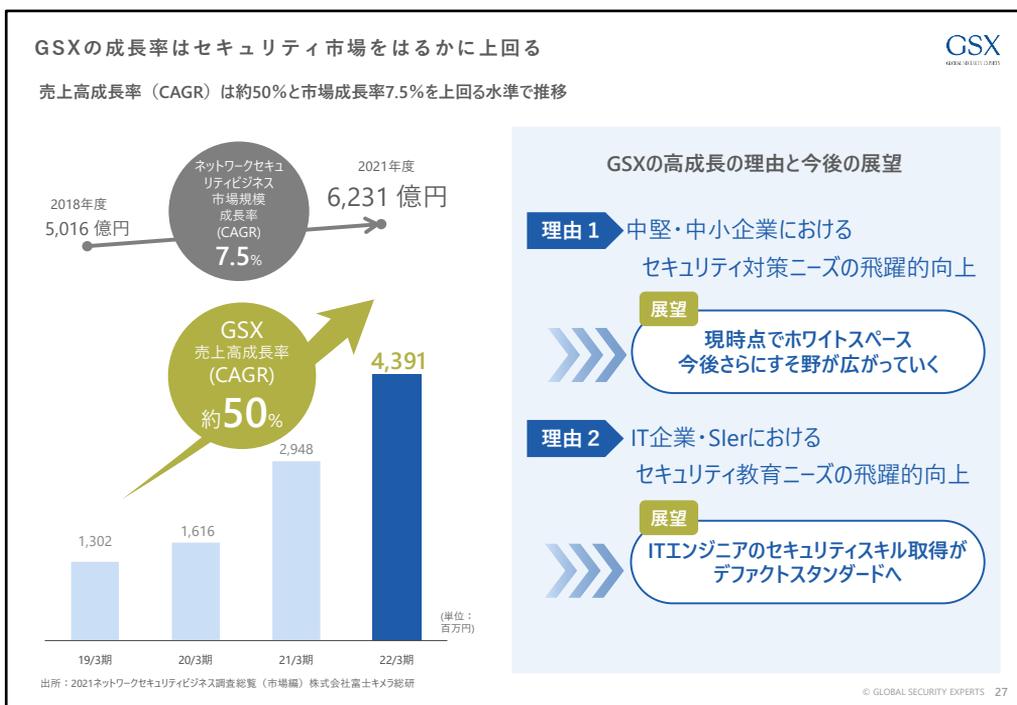
© GLOBAL SECURITY EXPERTS 26

IT企業・Sler様では、サイバーセキュリティ教育ニーズが高まっております。

例えば、システム開発が終わってから脆弱性やサイバーセキュリティの対策をするのでは、プログラムの変更が必要になった場合に手戻りが大きく無駄なコストになってしまいます。開発人材がサイバーセキュリティのテストができ、都度テストをしながらプログラムをつくっていけば、より合理的で素早く開発ができる「セキュア開発」という考え方が浸透しています。

同様に、インフラもクラウドサービスもそうした流れになってきていますし、サイバーセキュリティでIT商材に付加価値を付けることも盛んにいられております。その結果、経済産業省の手引きの中でも「プラス・セキュリティ人材」の確保が提言されていて、IT企業やSler様のIT人材に向けたサイバーセキュリティ教育ニーズが、一気に高まっております。





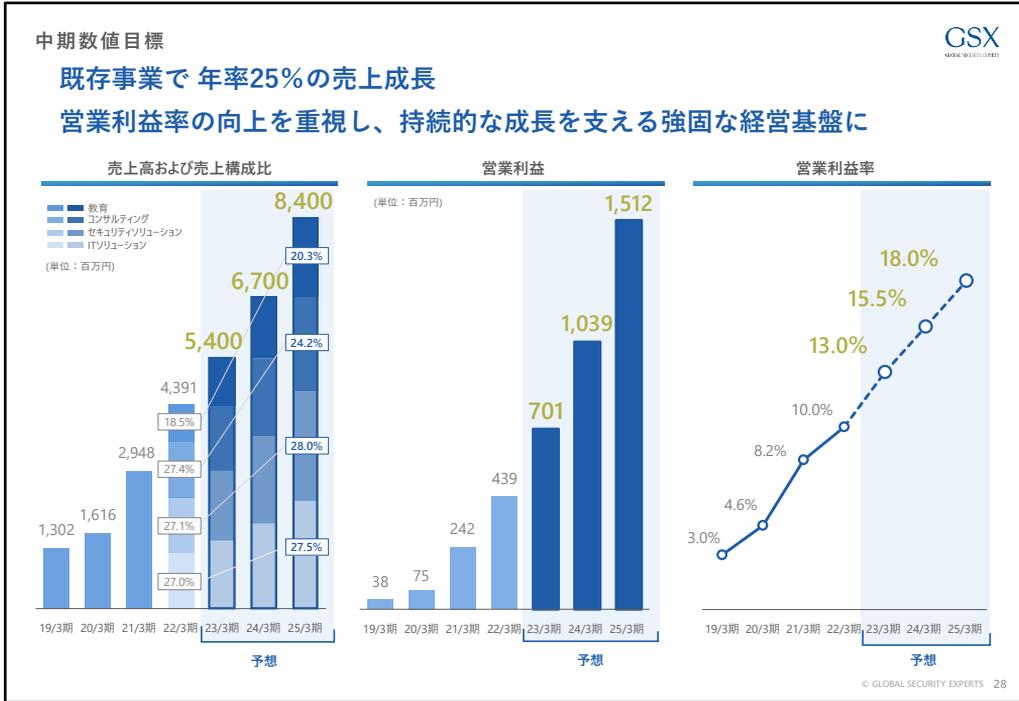
サイバーセキュリティ業界の成長率は、7.5%から10%ぐらいですが、当社の直近4年のCAGR（売上高成長率）は50%近くです。

今後も、当社は業界とは違う成長ができると考えています。その展望として、現時点でホワイトスペースの中堅・中小企業様のサイバーセキュリティ対策ニーズが、今後さらに裾野が広がっていくと理解をしております。当社がさらに高成長し、マーケットが広がっていくと考えております。

また、IT企業・Sler様に関してもサイバーセキュリティ教育ニーズが飛躍的に上がっていますが、今後はさらに、サイバーセキュリティのスキルを取得することがITエンジニアのデファクト・スタンダードになると考えております。ITエンジニアが120万人いる中で、サイバーセキュリティのスキル持っておく、あるいは資格を持つことが当たり前になると考えております。

当社はサイバーセキュリティ教育のコンテンツをどんどん増やしていき、「サイバーセキュリティ教育といえばGSX」というプレゼンスをさらに上げていけば、デファクト・スタンダードのマーケットもしっかり獲得できると考えております。





既存事業で年間最低25%の売上高成長を考えております。

こちらは今期を入れた当社の3カ年の計画です。
 売上高54億円から84億円になると計画しています。
 最低でも売上高25%以上の成長、営業利益率は今期で3%向上、
 来期からは最低でも2.5%以上向上できると考えており、
 早期のうちに営業利益率20%を超える会社となるよう、
 経営のかじ取りをしまいたいと考えております。



中期数値目標の前提

売上高

- ✓ 中堅・中小企業のセキュリティ対策ニーズは引き続き旺盛である
- ✓ セキュリティ対策に関するサービスをフルラインナップ
アップセル・クロスセルを徹底し、全事業がまんべんなく成長
- ✓ IT企業・Slerのセキュリティ人材育成ニーズは引き続き旺盛である

営業利益

売上総利益率
Up

セキュリティ教育コンテンツを拡充しながらも
オンライン・オンデマンド配信による粗利益率向上

売上総利益率
Up

各事業での**自動化/AI化・フレームワーク採用による粗利益率向上**

売上総利益率
Up

サイバーセキュリティ教育カンパニーとしての強みを活かし
地方都市を中心にデリバリーパートナー企業を育成
固定人件費を膨らませずにサービス提供のリソースを充足

販管費率
Down

販売パートナーの拡大、セキュリティ業界各社との連携による
効率的な販売活動を実現

※既存事業での中期経営計画であり、新規事業等の影響は織り込んでおりません。

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 29

前提として、中堅・中小企業様のサイバーセキュリティ対策ニーズが引き続き旺盛であること、IT企業・Sler様のサイバーセキュリティ人材育成ニーズが引き続き旺盛であることは確かであると考えております。

当社はサイバーセキュリティ対策に関するサービスをフルラインナップで持っています。ある商材でお取引の始まったお客様へアップセル・クロスセルを徹底してARPUを上げていきます。全事業が満遍なく成長していくことで売上高を上げていきたいと考えております。

営業利益率の向上に関しては、サイバーセキュリティ教育コンテンツをオンライン開催・オンデマンド配信することで、1人の講師に対し受講者様が10人でも30人でも問題なく運営ができるため、レバレッジがかなり効きます。また、各事業で自動化やAI化、フレームワーク採用による粗利率向上の余地はまだあります。

地方の拠点を中心にデリバリーパートナーをつくっていかうと考えております。現在は沖縄県の名護・那覇、北海道の札幌で、現地のSler様に対して当社が教育をしながら、お仕事を受けていただいています。地方創生の社会貢献にもなるため、どんどん増やしていきたいと考えております。

販管費率はまだ下げられると思っております。先ほどでお話した兼松エレクトロニクス社のような販売パートナーを拡大していきます。また、ラック社・NRIセキュアテクノロジーズ社など、サイバーセキュリティ業界各社との連携により、営業費を掛けないビジネス獲得ができていくと考えております。今年の3月に実行しましたブロードバンドセキュリティ社への出資も、効率的な販売活動を実現するためのものです。

これらの前提をもとに売上高を確保し、売上総利益を上げ、販管費率を下げることでしっかり営業利益率を上げていきたいと考えております。

29

IRサイト

当社HPのIRサイトでは、株主・投資家の皆様へ積極的に情報を発信しております。ぜひご覧ください。

<https://www.gsx.co.jp/ir/>



最後にESGの取り組みについてお話いたします。



ESGの取り組み


持続可能な社会の実現と企業価値向上の両立を
目指し、ESG/SDGsに積極的に取り組みます。

インターネット社会において、サイバーセキュリティの脅威は、人々の命や生活をもおびやかす重要な社会課題のひとつです。またそれらを解決できるサイバーセキュリティ人材が圧倒的に不足しています。当社は「サイバーセキュリティ教育カンパニー」として事業を通してたれもが安心して暮らせる豊かな社会の実現を目指します。

E

Environment

- ・「気候変動イニシアティブ (JCI: Japan Climate Initiative)」に参加
- ・BBSグループ温室効果ガス削減目標 (Scope1+2) †は、2030年度温室効果ガス排出量30%削減 (2019年度比)、2050年度にはグループの温室効果ガス排出量ネットゼロを目指す
- ・ペーパーレスの推進




S

Social

- ・人権を尊重する取り組みを推進
- ・人材育成、働きやすい環境づくり
- ・ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- ・健康・安全への取り組み
- ・地方創生・雇用創出








G

Governance

- ・コーポレート・ガバナンス強化
- ・コンプライアンスの遵守
- ・リスク管理への取り組み
- ・各種通報窓口の設置
- ・ステークホルダー・エンゲージメント強化




© GLOBAL SECURITY EXPERTS 31

現在はこちらでご覧いただいたようなことを取り組んでおりますが、まだやるべきことはあると考えており、今後、この範囲をもっと広げて経営をしてまいりたいと考えております。





この先は事業内容です。

何度かお話ししている内容ですので資料をご確認いただければと思います。

ご視聴いただきましてありがとうございました。



グローバルセキュリティエキスパートとは GSX
GLOBAL SECURITY EXPERTS

日本全国の企業の自衛力向上を目指し、セキュリティ業界全域で事業を展開する

サイバーセキュリティ教育カンパニー

— Purpose —
全ての企業をセキュリティ脅威から護る
そのために必要なことを惜しげもなくお伝えする

— Mission —
日本全国の企業の自衛力を向上すること

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 33



事業ドメイン GSX
GLOBAL SECURITY EXPERTS

コンサルティング事業

- ✓ コンサルティングサービス
- ✓ 脆弱性診断サービス
(タイガーチームサービス)

教育事業

- ✓ セキュリティ訓練サービス
- ✓ セキュリティ教育講座

ITソリューション事業※

- ✓ ITインフラ構築
- ✓ バイリンガルSESサービス
など

※事業譲受により2021/3期から開始

セキュリティソリューション事業

- ✓ セキュリティ製品の導入
- ✓ 運用サービスなど

日本全国の企業の
セキュリティレベル向上を
支援する

4つの事業ドメイン
を展開

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 34



事業内容： 教育事業



教育事業では、企業向けの「セキュリティ訓練サービス」とエンジニア向けの「セキュリティ教育講座」を主力サービスとして展開

企業向け

セキュリティ訓練サービス

47% 事業内
売上高構成比
(22/3期)

従業員のセキュリティ意識向上

組織内報告・初動フロー確立

主力サービス

標的型メール訓練サービス



トラップメール

GSX 標的型メール訓練サービス®

OEM供給を含み
トップ
シェア
※1

累計導入社数
11,000社
以上

最も多い料金事例： 1回訓練パック 1001-2000アドレス 訓練1回+報告書 105万円
2回訓練パック 501-1000アドレス 訓練2回+報告書 101万円

出所※1： ITR「ITR Market View：サイバーセキュリティ・コンサルティングサービス市場2021」標的型攻撃メール訓練サービス市場 - 従業員1,000～5,000人未満：ベンダー別売上金額シェア（2019～2021年度予測）
標的型攻撃メール訓練サービス市場 - 従業員：ベンダー別売上金額シェア（2019～2021年度予測）
標的型攻撃メール訓練サービス市場 - 建設業：ベンダー別売上金額シェア（2020～2021年度予測）

エンジニア向け

セキュリティ教育講座

53% 事業内
売上高構成比
(22/3期)

エンジニアのセキュリティ水準向上

高度なセキュリティ人材の増加

主力サービス

IT人材/非セキュリティ人材向け教育メニュー

当社
オリジナル



累計受講者数 3,476名

(22/9未時点)

認定Webアプリケーション脆弱性診断士

受講料金：22万円

セキュアWebアプリケーション設計士

受講料金：13.2万円

認定ネットワーク脆弱性診断士

受講料金：22万円

ゼロトラストコーディネーター

受講料金：8.8万円

セキュリティ人材向け教育メニュー

EC-Council

国際的なセキュリティ資格

累計受講者数 3,251名

(22/9未時点)

主なコース例



認定ネットワーク
ディフェンダー

受講料金

約32万円

主なコース例



認定ホワイトハッカー

受講料金

約54万円

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 35



事業内容： コンサルティング事業

コンサルティング事業では、セキュリティ実装の上流工程を支援する多様な「コンサルティングサービス」と「脆弱性診断サービス」を提供
サイバーセキュリティ市場において、中堅・中小企業を対象とした専門的なセキュリティコンサルティングサービスは、希少性が高い



事業内容

コンサルティング事業

コンサルティングサービス
(マネジメントコンサルティング)

51%

調査・分析、アセスメント、
体制整備などを
ワンストップで提供



脆弱性診断サービス
(タイガーチームサービス)

49%

自社ホワイトハッカーによる
幅広い脆弱性診断を提供

事業内
売上高構成比
(22/3期)

↓

→ 顧客送客の流れ

↓

セキュリティソリューション事業

コンサルティングサービス（マネジメントコンサルティング）

課題可視化

→

計画策定

→

体制構築

—主なサービス—

情報セキュリティ改善計画策定

管理体制整備支援

システム監査・セキュリティ監査

インシデント対応訓練サービス

脆弱性診断サービス（タイガーチームサービス）



設計書レビュー



プラットフォーム診断



IoTセキュリティ診断



スマホアプリセキュリティ診断



Webアプリケーション診断

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 36



事業内容： セキュリティソリューション事業 ITソリューション事業

セキュリティソリューション事業では、汎用的なセキュリティ製品に加え、高度なセキュリティの知見が必要な製品をラインナップとして揃え、中堅・中小企業向けの運用サービスなど、多様なセキュリティ製品導入・運用ニーズに対応

ITソリューション事業では、ITインフラ構築を中心にバイリンガルSESサービスなどセキュリティ周辺領域でのサービスを展開



事業内容

コンサルティング事業

セキュリティソリューション事業

- 製品導入
- 運用サービス
- 緊急対応

ITソリューション事業

- インフラ構築
- システム開発
- バイリンガルSESサービス



ストック売上^{※1}
比率

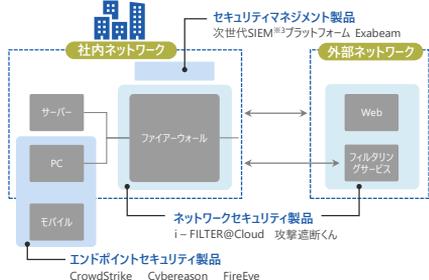


継続売上^{※1}
比率

注釈 ※1：ストック売上は、運用・保守、ソフトウェアサブスクリプションを含む
継続売上は、運用・保守・SESサービスを含む

セキュリティソリューション事業の主要製品^{※2}およびサービス

社内ネットワーク



セキュリティマネジメント製品
次世代SIEM^{※3}プラットフォーム Exabeam

ネットワークセキュリティ製品
i-FILTER@Cloud 攻撃遮断くん

エンドポイントセキュリティ製品
CrowdStrike Cybereason FireEye

レッドチーム評価サービス

お客様ネットワークのセキュリティ対策が、標的型攻撃に対してどの程度対応検出や遮断できるのかを、仮想的なマルウェアや攻撃を用いて診断

緊急対応サービス

IT環境におけるセキュリティインシデント対応を支援

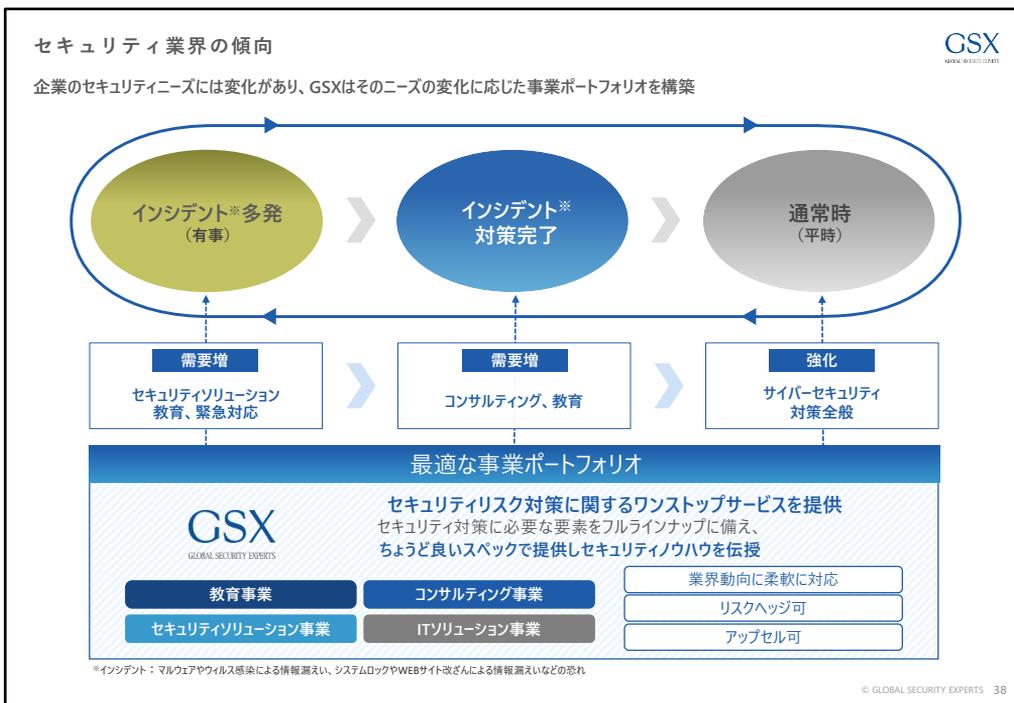
注釈 ※2：主要製品は他社製品
注釈 ※3：Security Information and Event Managementの略称（セキュリティログ管理）

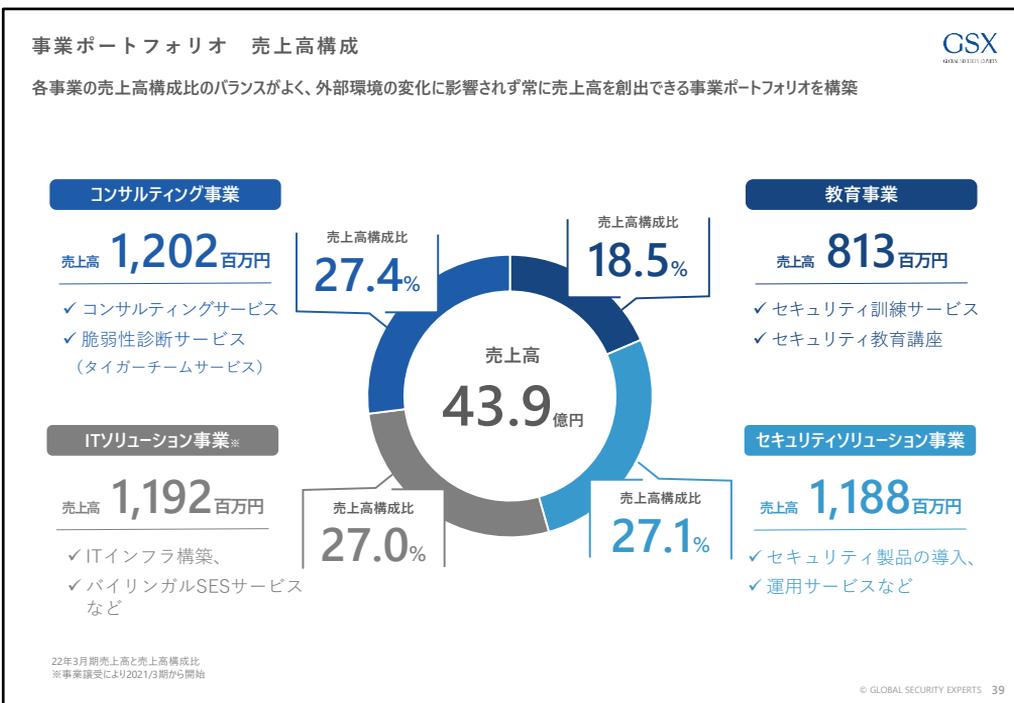
© GLOBAL SECURITY EXPERTS 37

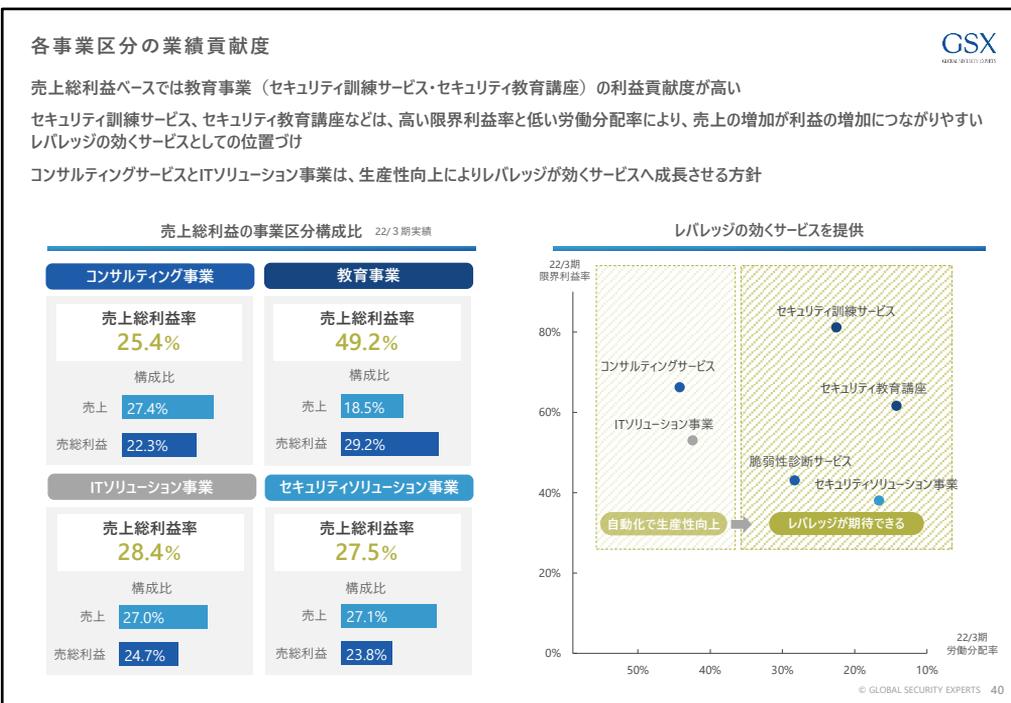
IRサイト

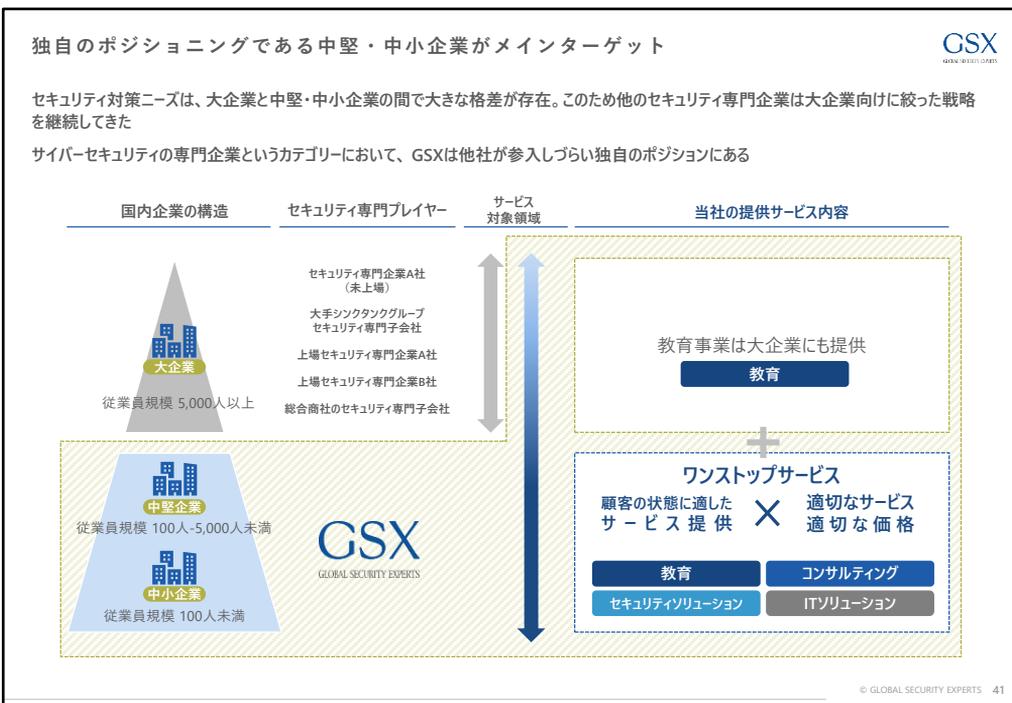
当社HPのIRサイトでは、株主・投資家の皆様へ積極的に情報を発信しております。ぜひご覧ください。
<https://www.gsx.co.jp/ir/>

37









セキュリティニーズの違いとサービスの最適化 GSX
GLOBAL SECURITY EXPERTS

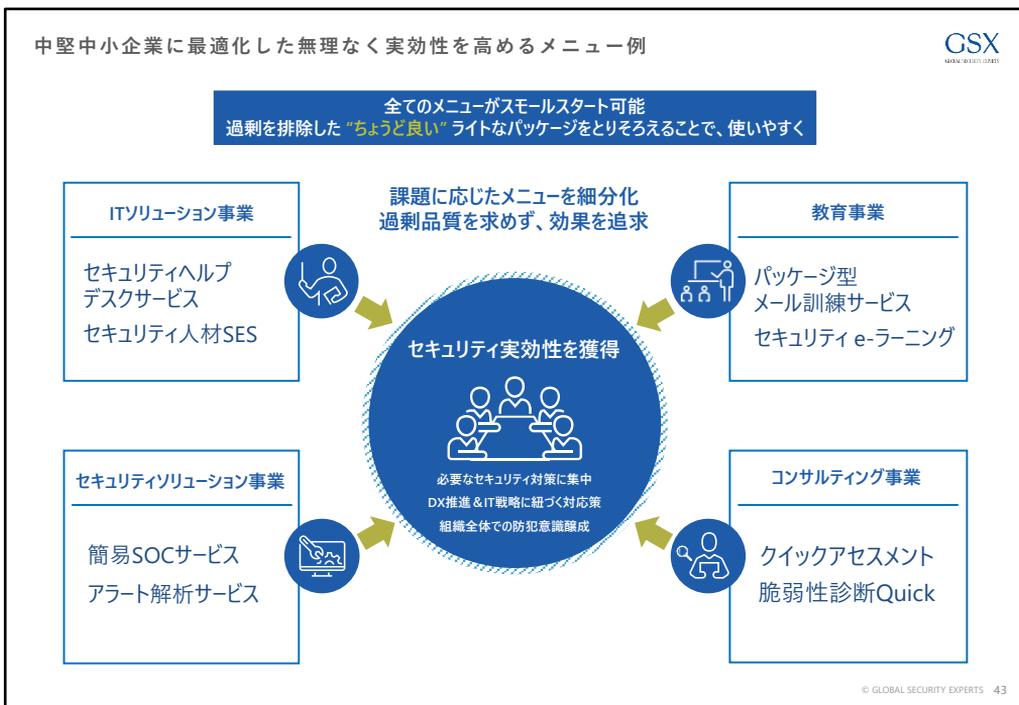
大企業が「脅威を完全に排除」するためのセキュリティ対策を求めるのに対し、中堅・中小企業は取引先に対してのレピュテーションリスク排除や自社の業態に適合させた必要最低限のセキュリティ対策を求める

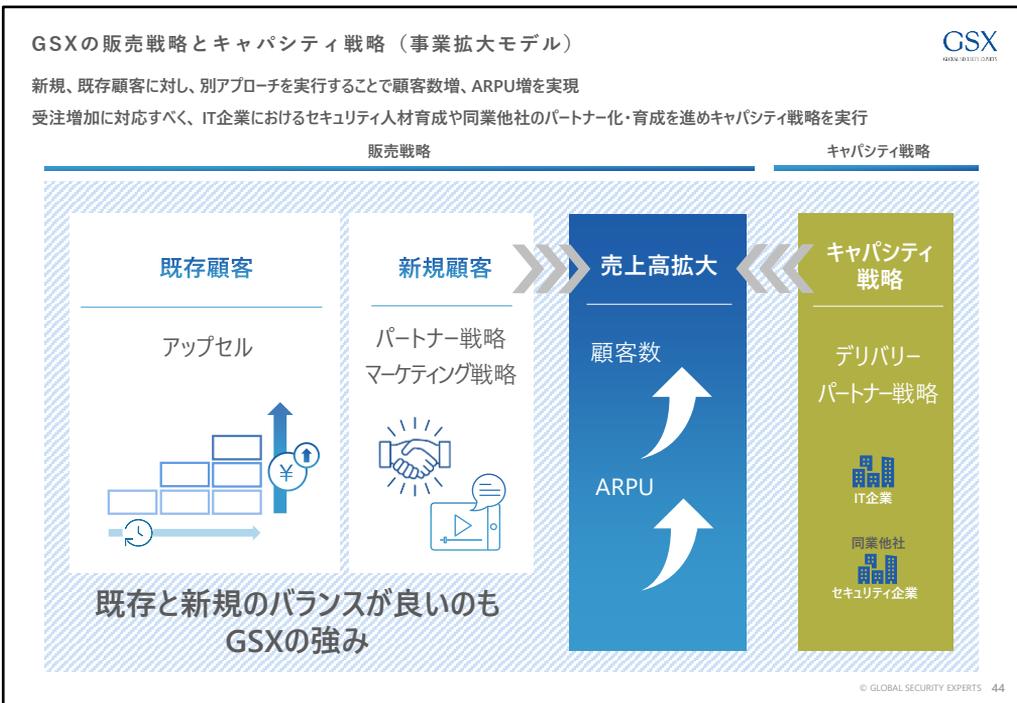
当社は豊富なセキュリティノウハウを蓄積していることで、実効性を保ちながら中堅・中小企業が求める水準へサービスの最適化ができる

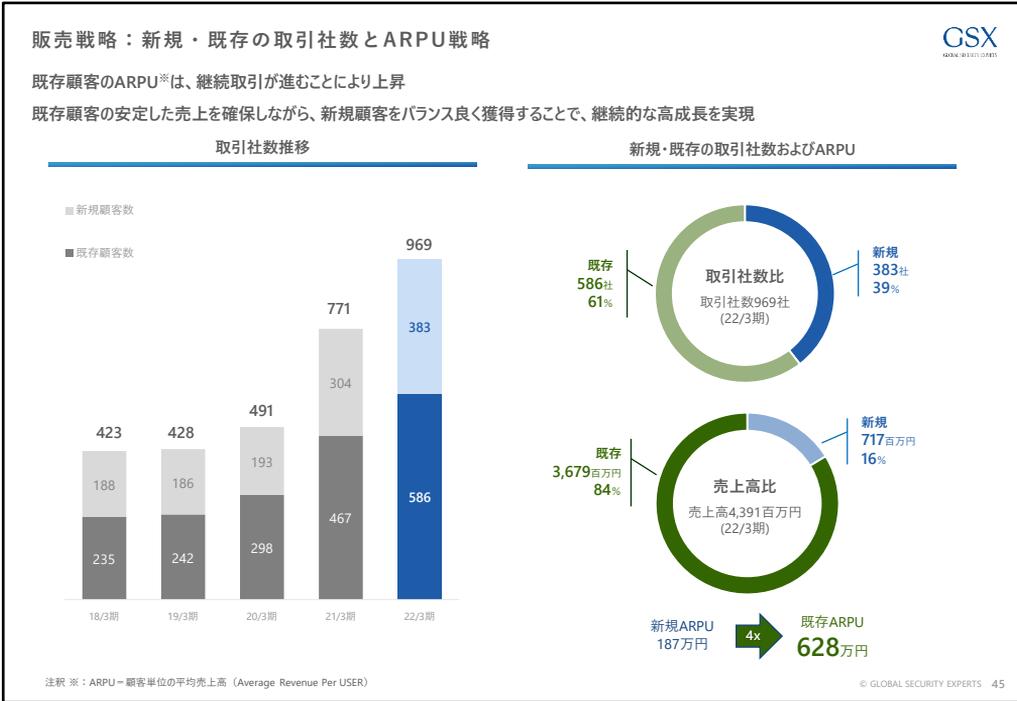
企業別のニーズと提供プレイヤー		中堅・中小企業向けにセキュリティサービスの最適化	
	大企業	中堅・中小企業	
主な企業ニーズ	セキュリティ脅威の完全排除	セキュリティの監査証明 自社にとって危険な脅威の排除	
求めるサービス	フルカスタム コンサルティングサービス	ライトコンサルティングサービス (必要なサービスのパッケージ)	
提供プレイヤー	大手シンクタンクグループ セキュリティ専門子会社 セキュリティ専門企業A社(未上場) 総合商社のセキュリティ専門子会社 上場セキュリティ専門企業A社 上場セキュリティ専門企業B社	 GSX GLOBAL SECURITY EXPERTS	<p style="text-align: center;">コンサルティング事業 セキュリティアセスメント</p> <p style="text-align: center;">フルカスタムオーダーメイドアセスメント</p> <p style="text-align: center;">↓ フルカスタム ↓ 要件多数 ↓</p> <p style="text-align: center;">大企業</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">GSX GLOBAL SECURITY EXPERTS</p> <p style="text-align: center;">クイックアセスメント</p> <p style="text-align: center;">↓ 実績に基づくテンプレート提供 ↓ ノウハウ提供 ↓</p> <p style="text-align: center;">中堅・中小企業</p>
			<p style="text-align: center;">セキュリティソリューション事業 監視サービス</p> <p style="text-align: center;">セキュリティオペレーションセンター</p> <p style="text-align: center;">↓ 24h監視 ↓ レポートニング ↓</p> <p style="text-align: center;">大企業</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">GSX GLOBAL SECURITY EXPERTS</p> <p style="text-align: center;">MDR</p> <p style="text-align: center;">↓ 24h監視 ↓ レポートニング ↓</p> <p style="text-align: center;">中堅・中小企業</p>

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 42









販売戦略 既存顧客：アップセル/クロスセル

多面的なサービス提供によってクロスセル・アップセルを実現。既存顧客のARPU[※]は、新規顧客に比べて高く、継続取引が進むことで効率的な事業拡大を実現



事業シナジーを活かした効率的な事業拡大

多角的なサポートを継続的に提供し、中長期的な取引サイクルを構築

システム運用と事故対応
例：フォレンジック調査など



プロセスを網羅しているからできるクロスセル/アップセル

セキュリティ対策に必要な全プロセスを提供しているため入り口を多彩に構えられ、かつ、次の工程を獲得できる。

教育

アセスメント

組織構築・改革

システム導入・運用

<p> ランサムウェア対策</p> <p>初回受注</p> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px 10px; border-radius: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">インシデント対応</div>	<p>クロスセル/アップセル</p> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px 10px; border-radius: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">EDR導入</div>
<p> 組織力強化</p> <p>初回受注</p> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px 10px; border-radius: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">アセスメント</div>	<p>クロスセル/アップセル</p> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px 10px; border-radius: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">CSIRT構築・訓練</div>
<p> 診断内製化</p> <p>初回受注</p> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px 10px; border-radius: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">脆弱性診断</div>	<p>クロスセル/アップセル</p> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px 10px; border-radius: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">教育講座：SecuriST</div>

注釈 ※：ARPU＝顧客単位の平均売上高（Average Revenue Per USER）

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 46



販売戦略：日本全国のIT企業の販売パートナー化



IT企業が持つ顧客基盤とプレゼンスを活用して、ホワイトスペースとなっていた市場を開拓

当社とパートナーになることで、IT企業は自社製品・サービスとのシナジーでセキュリティビジネスやDX関連ビジネスの拡大に繋げられる

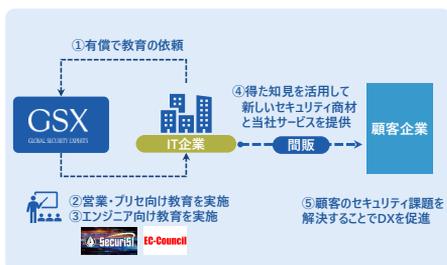
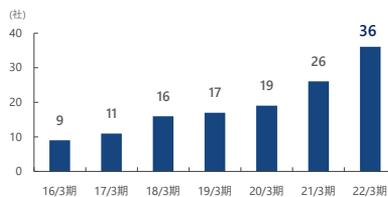
GSXの販売パートナーになるメリット

IT企業のニーズ

- DX推進において必要となる新しいセキュリティ商材[※]は単純販売が難しい
- これらを自社で拡販できるよう社員を教育してセキュリティビジネスを伸ばし、セキュリティをフックとしてさらにDX関連ビジネス（主要事業であるSI）も伸ばさせたい

※ゼロトラストやマルチクラウドなどの分野

販売パートナー数の推移と全国的拡大



© GLOBAL SECURITY EXPERTS 47



販売戦略 新規顧客：デジタルマーケティング戦略強化

GSX
GLOBAL SECURITY EXPERTS

新規顧客獲得については受注に繋がるデジタルマーケティング施策を実行し、質の高いリードを獲得できるよう効率的・効果的なデジタルマーケティング中心に移行

デジタルマーケティング各分野においてセキュリティに強い媒体を選び、動画などを活用したデジタルマーケティング施策を実行

デジタルマーケティング強化


NewsTV


YouTube


Facebook


Twitter

教育全商材（SecuriST、EC-Council、CISSP）の動画を制作、NewsTVで配信し、販売促進強化

NEWS TV わずか1年で受講者3倍！
GSXのサイバーセキュリティ教育の魅力とは



第三者に示すことができるようになりました





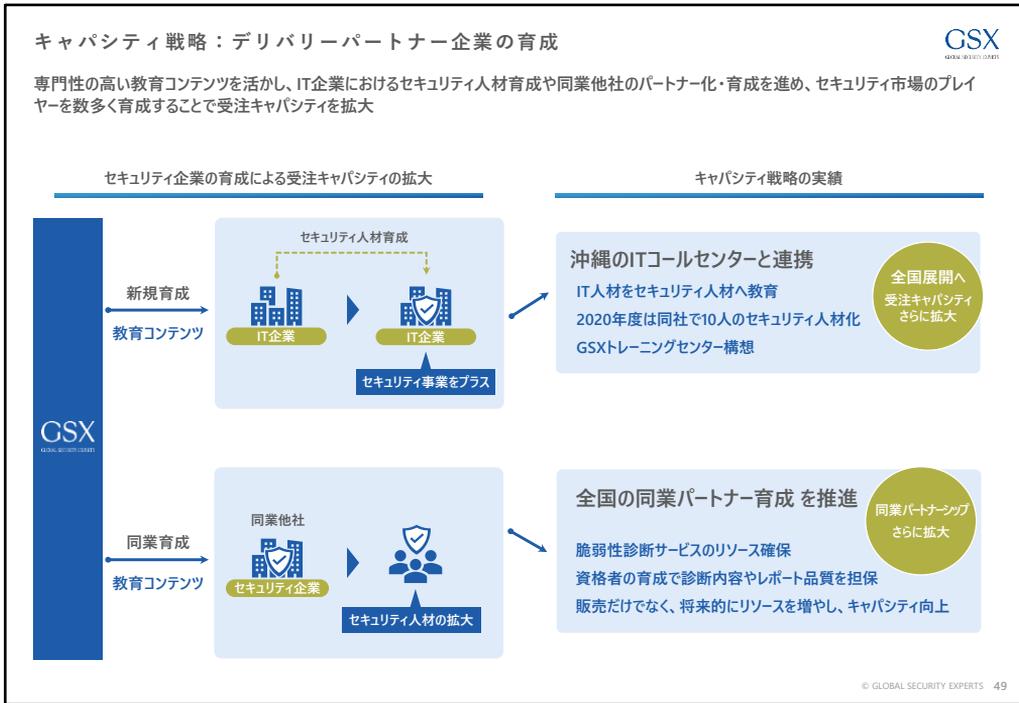



© GLOBAL SECURITY EXPERTS 48

48

IRサイト

当社HPのIRサイトでは、株主・投資家の皆様へ積極的に情報を発信しております。ぜひご覧ください。
<https://www.gsx.co.jp/ir/>



GSX
GLOBAL
SECURITY
EXPERTS

Appendix



会社概要



(株)ビジネスブレイン太田昭和を親会社として、サイバーセキュリティの黎明期に設立したサイバーセキュリティ専門企業
教育事業、コンサルティング事業、セキュリティソリューション事業、ITソリューション事業の4つの事業を展開

会社概要		役員一覧	
会社名	グローバルセキュリティエキスパート株式会社	代表取締役社長	青柳 史郎
設立	2000年4月 ^{※1}	代表取締役副社長	原 伸一
代表者	代表取締役社長 青柳 史郎	常務取締役	与儀 大輔
資本金	485百万円	取締役	吉見 主税
事業内容	情報セキュリティ・サイバーセキュリティの実装・運用支援をワンストップで提供する「コンサルティング事業」「ソリューション事業」と企業のセキュリティ水準向上を内面から支援する「教育事業」を展開	取締役	三木 剛
事業セグメント	サイバーセキュリティ事業（単一）	取締役	近藤 社一
従業員数	118名 ※22/3末	取締役	岡田 幸憲
主要株主	(株)ビジネスブレイン太田昭和 兼松エレクトロニクス(株) (株)野村総合研究所	取締役	上野 宣
		取締役（監査等委員）	井上 純二
		取締役（監査等委員）	古谷 伸太郎
		取締役（監査等委員）	水谷 繁幸

注釈 ※1：グローバルセキュリティエキスパートへの商号変更日も設立日として記載

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 51



マネジメントメンバー

GSX
GLOBAL SECURITY EXPERTS

代表取締役社長
青柳 史郎
Shiro Aoyagi

1998年 4月 : 株式会社コンフォメーションテクノロジー (現株式会社ユニタ) 入社
2009年 1月 : 株式会社クラウドテクノロジー取締役セキュリティ事業本部長
2012年 3月 : 当社入社
2012年10月 : 当社 事業開発部長
2014年 6月 : 当社 執行役員営業本部長
2017年 4月 : 当社 取締役経営企画本部長
2018年 4月 : 当社 代表取締役社長 (現任)

代表取締役副社長
原 伸一
Shinichi Hara

1991年 4月 : 株式会社アマダメトロックス(現株式会社アマダ)入社
2000年 4月 : 株式会社アマダメトロックス代表取締役
2012年 4月 : スタートコム株式会社取締役
2018年 4月 : 当社入社 執行役員副社長兼経営企画本部長
2018年 6月 : 当社 代表取締役副社長 (現任)

常務取締役
与儀 大輔
Daisuke Yogi

1994年 4月 : 横河電機株式会社 入社
2007年 8月 : 株式会社株ラック 入社
2012年12月 : 株式会社株野村総合研究所 入社
NRIセキュアテクノロジー株式会社 出向 営業推進部マネージャー
2020年4月 : 同社出向 事業企画本部 事業戦略部 担当部長
2020年10月 : 当社 常務取締役 (現任)

取締役
吉見 主税
Chikara Yoshimi

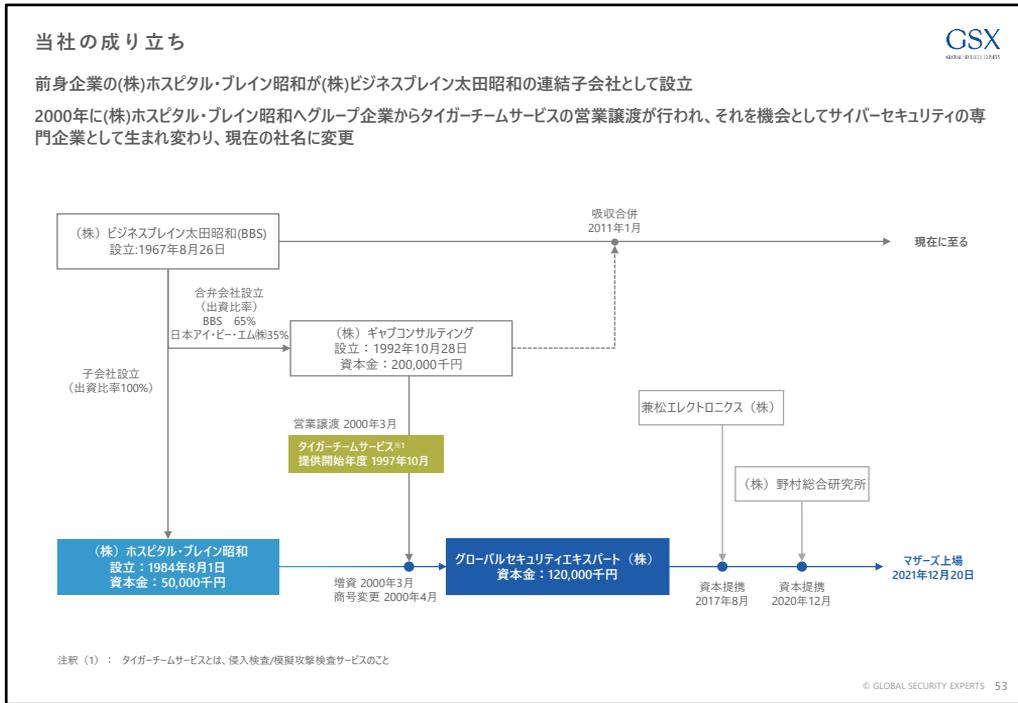
2005年 5月 : 株式会社バファシユ (現 株式会社EPコンサルティングサービス) 入社
2008年12月 : 同社 ITソリューション事業部セールスマネージャー
2016年 4月 : 同社 ITソリューション事業部長
2016年 6月 : 同社 取締役 ITソリューション事業部長
2020年 4月 : 当社 取締役 ITソリューション事業本部長
2021年 4月 : 当社 取締役 (現任)

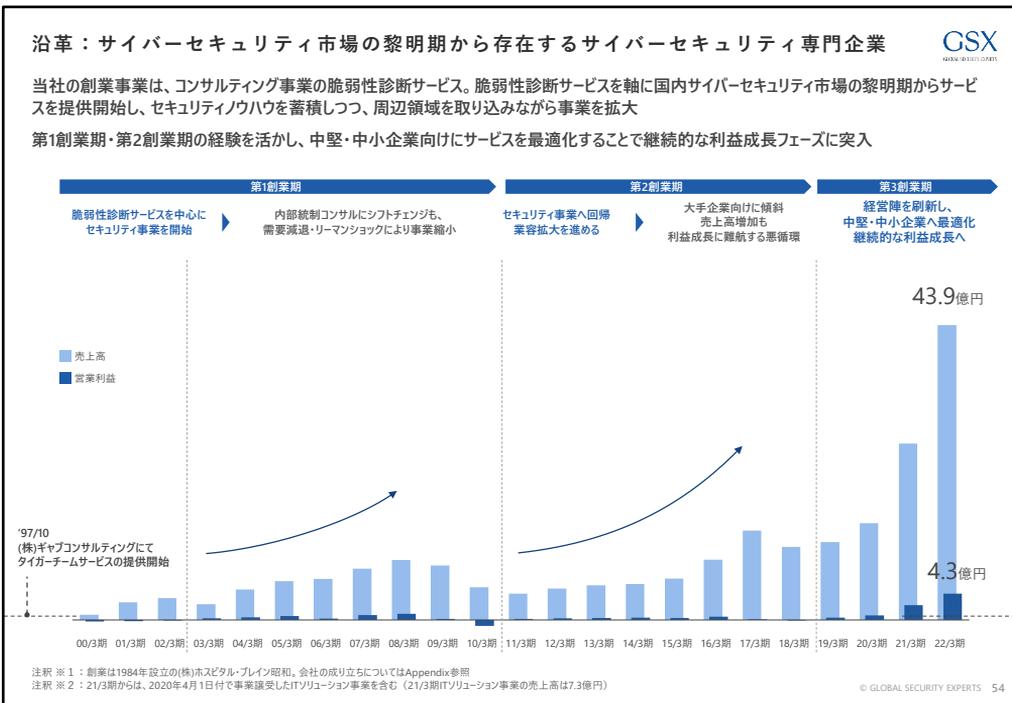
取締役 西日本支社長
三木 剛
Tsuyoshi Miki

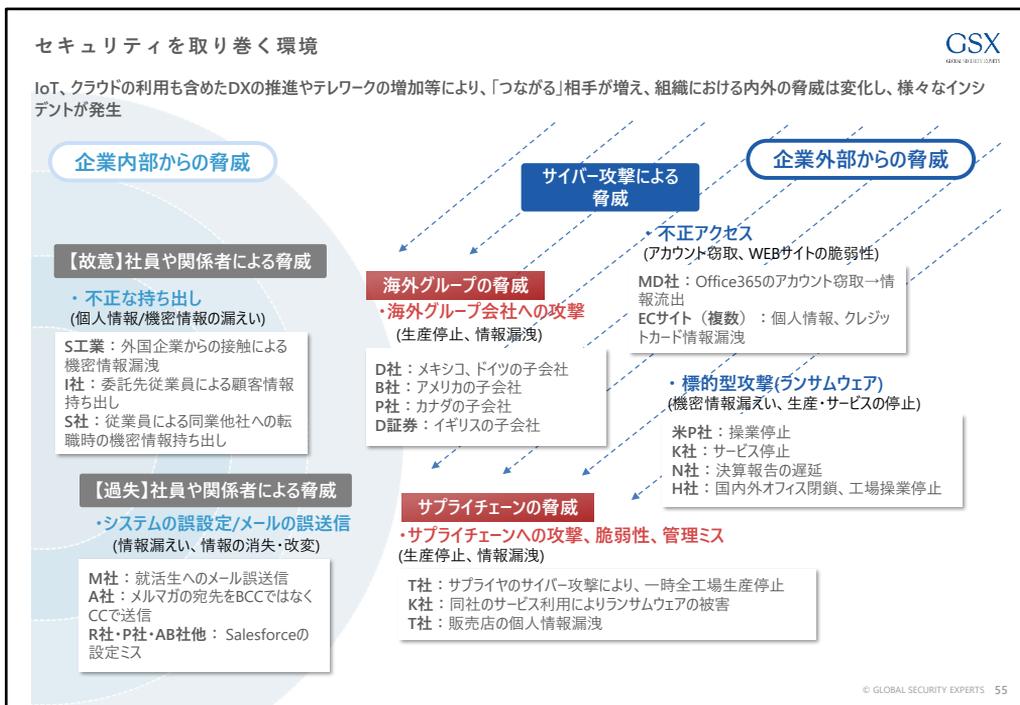
2005年10月 : 株式会社株神戸デジタルラボ 入社
2008年10月 : 同社 営業部長
2011年10月 : 同社 執行役員 セキュリティソリューション事業部長
2013年10月 : 同社 取締役 サービス推進本部長 兼 セキュリティソリューション事業部長
2019年 8月 : 当社入社
2019年10月 : 当社 西日本支社長
2020年 4月 : 当社 取締役 西日本支社長 (現任)

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 52









国内サイバーセキュリティ市場を取り巻く市場環境

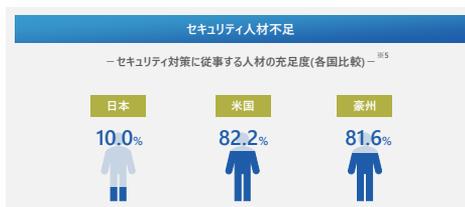
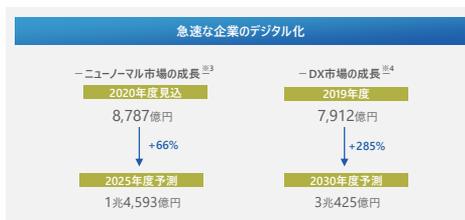
GSX
GLOBAL SECURITY EXPERTS

サイバーセキュリティ市場では、対策需要が増加。また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う企業の急速なデジタル化の進展が同市場の成長への追い風。一方で、未曾有のセキュリティ人材不足が課題

この市場環境の中で、セキュリティ教育やセキュリティ実装の上流から下流までワンストップで展開する当社へのニーズが高まっている



出所 ※1：国立研究開発法人情報通信研究機構[NICTER観測レポート2021]
出所 ※2：「サイバー空間をめぐる脅威の情勢等について」（警察庁）
https://www.npa.go.jp/publications/statistics/cybersecurity/data/R03_kami_cyber_jousei.pdf
https://www.npa.go.jp/publications/statistics/cybersecurity/data/r126_jousei.pdf



出所 ※3：富士キメラ総研「After/With COVIDで加速するニューノーマル時代のICT変革ソリューション市場」
出所 ※4：富士キメラ総研「2020 デジタルトランスフォーメーション市場の将来展望」
出所 ※5：「企業における情報セキュリティ実態調査2020」NRIセキュアテクノロジーズ

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 56





財務ハイライト

GSX
gsx-01111.com

決算期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期
売上高 (千円)	1,221,700	1,302,976	1,616,613	2,948,871	4,391,317
経常利益 (千円)	△10,348	37,096	73,103	239,370	414,331
当期純利益 (千円)	△10,470	28,024	38,658	167,657	261,099
資本金 (千円)	100,000	100,000	270,000	291,800	485,000
発行済株式数 (株)	5,400	5,400	10,000	10,590	3,327,000
純資産額 (千円)	350,936	378,960	736,113	942,201	1,565,478
総資産額 (千円)	871,996	956,504	1,712,769	2,384,273	3,482,070
1株当たり純資産額 (円)	64,988.24	70,177.92	245.37	296.57	470.54
1株当たり配当額 (円)	-	800	500	2,900	15
1株当たり当期純利益 (円)	△1,938.91	5,189.68	14.56	54.70	80.91
自己資本比率 (%)	40.25	39.62	42.98	39.52	44.96
自己資本利益率 (%)	-	7.68	6.93	19.98	20.82
配当性向 (%)	-	15.42	11.45	17.67	18.5
営業キャッシュフロー (千円)	-	-	△284,882	767,002	328,219
投資キャッシュフロー (千円)	-	-	△76,692	△240,397	△294,649
財務キャッシュフロー (千円)	-	-	387,400	△91,241	460,634
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	-	-	216,959	652,324	1,146,528
従業員数 (人)	60	64	75	110	118

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 58



ご留意事項

GSX
GLOBAL SECURITY EXPERTS

本資料は、グローバルセキュリティエキスパート株式会社の決算、事業内容および業界動向について、グローバルセキュリティエキスパート株式会社による現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。

これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。

既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性があります。

グローバルセキュリティエキスパート株式会社の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。

本資料における将来展望に関する表明は、作成時点において利用可能な情報に基づいてグローバルセキュリティエキスパート株式会社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。

また、監査法人による監査を受けていない数値が一部含まれていますが、参考数値として記載しています。

© GLOBAL SECURITY EXPERTS 59



GSX
GLOBAL
SECURITY
EXPERTS

